

学校教育目標

生徒一人一人の個性を最大限に伸ばさせ、社会の発展に貢献できる人間性豊かな活力ある人材を育成する。

目指す学校像(ビジョン)

- 自己の生き方や進路について主体的に探究し、目標に向かって挑戦を続ける生徒を育成する学校
- 他者を尊重し、豊かな人間関係を築くことができる生徒を育成する学校
- 社会の一員であることを認識し、社会人としてのモラルやマナーを身に付けた生徒を育成する学校

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準		担当			
				努力指標	成果指標				
自ら学ぶ力の育成	生徒一人一人が希望する生き方や進路を実現できるように、入学時から組織的・計画的に課題対応能力及びキャリアプランニング能力を高める取組を進める。	重点 生徒の課題対応能力及びキャリアプランニング能力を高める取組を進めるため、教員の授業力の向上を図るとともに、生徒の進路志望に応じた指導を充実する。 【重点目標・設定理由】 開校4年目となる今年度は、初めて4学年が揃う完成年度となることから、昨年度に引き続き、進路実現に向けて自ら学ぶ力の育成を重点目標として取り組むことが必要と考えた。また、働き方改革についても、喫緊の課題であるため。	すべての生徒が積極的に授業に出席し、基礎学力の定着や学力の向上を実感できるよう、ユニバーサルデザインに基づく授業づくり等の取組を進める。 (平日登校コース)	4	みらい創生naviに授業づくり、学習支援の在り方をまとめ、それを踏まえた授業を80%以上の科目で実施した。	4	授業への平均出席率が、80%以上であった。	教務情報	
				3	みらい創生naviに授業づくり、学習支援の在り方をまとめ、それを踏まえた授業を50%以上の科目で実施した。	3	授業への平均出席率が、70%以上であった。		
				2	みらい創生naviに授業づくり、学習支援の在り方をまとめたが、それを踏まえた授業は50%未満であった。	2	授業への平均出席率が、60%以上であった。		
				1	みらい創生naviに授業づくり、学習支援の在り方をまとめるにとどまった。	1	授業への平均出席率が、60%未満であった。		
			各科目のwebページを開設し、レポート学習のための参考資料や解説動画の公開等、自学自習を促進するための学習支援を行い、すべての生徒が基礎学力の定着や学力の向上を実感できるようにする。 (通信教育コース)	4	webページを利用した学習支援を行った科目が、80%以上であった。	4	生徒アンケートの学習に関わる項目で、肯定的評価の割合が90%以上であった。		
				3	webページを利用した学習支援を行った科目が、60%以上であった。	3	生徒アンケートの学習に関わる項目で、肯定的評価の割合が70%以上であった。		
				2	webページを利用した学習支援を行った科目が、40%以上であった。	2	生徒アンケートの学習に関わる項目で、肯定的評価の割合が50%以上であった。		
				1	webページを利用した学習支援を行った科目が、40%未満であった。	1	生徒アンケートの学習に関わる項目で、肯定的評価の割合が50%未満であった。		
			すべての生徒の進路意識を高め、希望する進路を実現できるように、JSTやチューターによる個別面談や進路ガイダンス、進路検討会議等の取組を進める。	4	進路ガイダンスや進路検討会議を年間5回以上開催し、JSTやチューターによる生徒の個別面談を行った。	4	進路指導にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が80%以上であった。		進路指導
				3	進路ガイダンスや進路検討会議を開催し、JSTやチューターによる生徒の個別面談を行った。	3	進路指導にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が60%以上であった。		
				2	進路検討会議を開催し、JSTやチューターによる生徒の個別面談を行った。	2	進路指導にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が40%以上であった。		
				1	進路検討会議を開催し、チューターによる生徒の個別面談を行った。	1	進路指導にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が40%未満であった。		

豊かな人間性の育成	生徒一人一人が円滑な人間関係を築けるよう、入学時から組織的・計画的に自己理解及び人間関係形成能力を高める取組を進める。	生徒の自己管理能力及び人間関係形成能力を高める取組を進めるため、教育相談、SSTの授業、学校行事や部活動などの充実を図るとともに、自己肯定感・自己有用感を高める指導を充実する。	生徒の進学に向けての意識を高めるため、大学・短大・専門学校等の情報発信に努める。	4	進学希望者に対する、大学等の学校説明会等の情報発信を20回以上行った。	4	進路指導にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が80%以上であった。	進路指導		
				3	進学希望者に対する、大学等の学校説明会等の情報発信を15回以上行った。	3	進路指導にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が60%以上であった。			
				2	進学希望者に対する、大学等の学校説明会等の情報発信を10回以上行った。	2	進路指導にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が40%以上であった。			
				1	進学希望者に対する、大学等の学校説明会等の情報発信が10回未満であった。	1	進路指導にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が40%未満であった。			
	生徒一人一人が円滑な人間関係を築けるよう、入学時から組織的・計画的に自己理解及び人間関係形成能力を高める取組を進める。	生徒の自己管理能力及び人間関係形成能力を高める取組を進めるため、教育相談、SSTの授業、学校行事や部活動などの充実を図るとともに、自己肯定感・自己有用感を高める指導を充実する。	すべての生徒の自己肯定感・自己有用感が高まるよう、学校行事や部活動・生徒活動等を充実させるための取組を進める。	すべての生徒が安心して学ぶことができるよう、教育相談体制を充実させるとともに、いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための取組を進める。	4	生徒会執行部や専門委員会を中心に、生徒が主体となって学校行事や部活動・生徒会活動等の企画・運営を行った。	4	学校行事等にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が80%以上であった。	生徒指導	
					3	生徒会執行部を中心に、生徒が主体となって学校行事や部活動・生徒会活動等の企画・運営を行った。	3	学校行事等にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が60%以上であった。		
					2	生徒の意見を反映させながら、教職員が主導して学校行事や部活動・生徒会活動等の企画・運営を行った。	2	学校行事等にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が40%以上であった。		
					1	学校行事や部活動・生徒会活動等の企画・運営において、生徒の意見を十分に反映させることができなかった。	1	学校行事等にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が40%未満であった。		
		すべての生徒が安心して学ぶことができるよう、教育相談体制を充実させるとともに、いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための取組を進める。	すべての生徒が安心して学ぶことができるよう、教育相談体制を充実させるとともに、いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための取組を進める。	すべての生徒が安心して学ぶことができるよう、教育相談体制を充実させるとともに、いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための取組を進める。	すべての生徒が安心して学ぶことができるよう、教育相談体制を充実させるとともに、いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための取組を進める。	4	チューター、年次、分掌、外部機関との連携を綿密に行い、教育相談体制及びいじめ防止体制を構築した。	4	学校生活等にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が80%以上であった。	生徒指導・総務保健
						3	配慮の必要な生徒やいじめに関する情報を面談やアンケートから収集した。	3	学校生活等にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が60%以上であった。	
						2	教育相談及びいじめ防止に関する研修を年間2回ずつ行い、学校全体で意識統一を図った。	2	学校生活等にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が40%以上であった。	
						1	教育相談体制やいじめ防止体制についてホームページ等で周知した。	1	学校生活等にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が40%未満であった。	
		すべての生徒の自己管理能力を高め、生徒自らが情報を活用しながら円滑に学校生活を送れるよう、積極的な情報発信を行う。	すべての生徒の自己管理能力を高め、生徒自らが情報を活用しながら円滑に学校生活を送れるよう、積極的な情報発信を行う。	すべての生徒の自己管理能力を高め、生徒自らが情報を活用しながら円滑に学校生活を送れるよう、積極的な情報発信を行う。	すべての生徒の自己管理能力を高め、生徒自らが情報を活用しながら円滑に学校生活を送れるよう、積極的な情報発信を行う。	4	みらい通信、掲示板に加えてホームページでの情報発信を定期的に年間24回以上行った。	4	学校生活等にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が80%以上であった。	総務保健
						3	みらい通信、掲示板に加えてホームページでの情報発信を定期的に年間12回以上行った。	3	学校生活等にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が60%以上であった。	
						2	みらい通信、掲示板に加えてホームページでも情報発信を行った。	2	学校生活等にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が40%以上であった。	
						1	みらい通信、掲示板での情報発信にとどまった。	1	学校生活等にかかる生徒アンケートで肯定的評価の割合が40%未満であった。	

社会人として必要な資質の育成	生徒一人ひとりが社会的・職業的に自立できるよう、入学時から組織的・計画的に自己管理能力及び社会形成能力を高める取組を進める。	生徒の自己管理能力及び社会形成能力を高めるため、単位修得率向上及び地域・企業等との連携強化の取組を進める。	授業改善を行い生徒の学習意欲を高めることによって、単位修得率を向上させて自己管理能力の向上を図る。	4	授業改善（テーマの決定、計画、実施、課題設定）を全校レベルで組織的に行った。	4	平日登校コースの単位修得率が 80%以上となった。	通信教育コースの単位修得率が 65%以上となった。	教務情報
				3	授業改善の校内共通テーマを設定したが、実施、課題設定は教科で行った。	3	平日登校コースの単位修得率が 75%以上となった。	通信教育コースの単位修得率が 60%以上となった。	
				2	授業改善（テーマの決定、計画、実施、課題設定）を教科で行った。	2	平日登校コースの単位修得率が 70%以上となった。	通信教育コースの単位修得率が 50%以上となった。	
				1	授業改善（テーマの決定、計画、実施、課題設定）を個人で行った。	1	平日登校コースの単位修得率が 70%未満となった。	通信教育コースの単位修得率が 50%未満となった。	
			地域・企業等との連携を強化し、生徒の進路希望達成率を高めることで、社会形成能力の向上を図る。	4	J S Tを中心に 100 社以上の企業等と連携を進めた。	4	就職希望者の就職率が 70%以上となった。	進路指導	
				3	J S Tを中心に 80 社以上の企業等と連携を進めた。	3	就職希望者の就職率が 50%以上となった。		
				2	J S Tを中心に 60 社以上の企業等と連携を進めた。	2	就職希望者の就職率が 30%以上となった。		
				1	J S Tを中心に企業連携を進めたが、60 社未満に留まった。	1	就職希望者の就職率が 30%未満となった。		
信頼される学校	重点働き方改革の取組を進めるため、年間月平均の勤務時間外の削減とともに、年次有給休暇取得の促進を図る等の教職員の意識改革を進める。	教職員の年間月平均の勤務時間外の在校時間が 45 時間以下になるよう、各自が定めた定時退校日を確実に実施する。	4	定時退校の実施率が 80%以上であった。	4	勤務時間外在校時間 45 時間以下(年間月平均)の割合が 80%以上であった。	管理職		
			3	定時退校の実施率が 60%以上であった。	3	勤務時間外在校時間 45 時間以下(年間月平均)の割合が 60%以上であった。			
			2	定時退校日の実施率が 40%以上であった。	2	勤務時間外在校時間 45 時間以下(年間月平均)の割合が 40%以上であった。			
			1	定時退校日の実施率が 40%未満であった。	1	勤務時間外在校時間 45 時間以下(年間月平均)の割合が 40%未満であった。			